

Manus 1.6 深掘りリサーチレポート

エグゼクティブサマリー

Manus 1.6は、2025年12月15日に公式ブログで発表された大型アップデートで、①新フラッグシップ「Max」エージェント（計画・問題解決アーキテクチャ強化）、②モバイルアプリのエンドツーエンド開発、③画像生成・編集のための「Design View」を三本柱として位置づけています。公式説明では、二重盲検テストでユーザー満足度が19.2%以上向上したとされます（比較対象や設計詳細は未公開）。¹

2026年3月30日（JST）時点で、公式APIの「agentProfile」選択肢は `manus-1.6` / `manus-1.6-lite` / `manus-1.6-max` に整理され、作成タスクのデフォルトも `manus-1.6` と明記されています。したがって「公式のエージェント（モデル）世代番号」としては1.6系が現行扱いと読むのが妥当です（アプリのビルド番号等とは別概念）。²

一方で、Manusは2025年末にMeta³への合流（“joining Meta”）を公式ブログで告知し、報道でも買収（あるいは買収合意）として扱われています。⁴ 買収に関する地政学・規制面の不確実性（中国当局による審査等）も報道されており、企業統治やデータガバナンス面は「アップデート内容」と別に注視が必要です。⁵

技術面では、公開資料から確実に言えるのは「エージェントのアーキテクチャ強化（Max）」「Wide Researchの並列サブエージェントもMaxアーキテクチャへ」「Design ViewはGoogle⁶のNano Banana Proで駆動」といった“コンポーネント/機能単位”の更新までで、基盤LLMそのものの系統（例：どのフロントエンドLLMを内蔵するか）や学習データ更新については公式リリースノート上は具体的に開示されていません（未指定）。⁷

ベンチマークについては、Manus社の内部指標（1.5で「平均4倍高速化」「品質+15%」「満足度+6%」、1.6 Maxで「満足度+19.2%」等）が中心で、測定設計の詳細は限定的です。⁸ 第三者評価としては、2025年に複数のDeep Researchシステムを評価した研究（DeepResearchEval）があり、当該評価ではManusが「事実性（Right比率）」で最上位と報告されます。ただし、この研究のデータ収集は2025年8～9月で、Manus 1.6（2025/12/15）より前の世代を含む可能性が高く、「1.6の性能」を直接示すものではありません（版が未指定）。⁹

リリース状況と公式バージョン番号

Manus 1.6は、公式ブログ（日本語）で2025年12月15日付として公開され、「Manus 1.6（Max、モバイル開発、Design Viewを含む）はすべてのユーザーに現在利用可能」と明記されています。¹

「公式バージョン番号」をどこに置くかは、Manusが“エージェント（サーバ側能力）”と“クライアントアプリ（配布物の版）”を併走させているため注意が必要です。開発者向けのAPIリファレンスでは、タスク作成時に指定する `agentProfile` が `manus-1.6` / `manus-1.6-lite` / `manus-1.6-max` の3種であると列挙され、デフォルトも `manus-1.6` とされています。¹⁰

このAPI記述は「サーバ側の公式エージェント世代」が1.6系であることを直接示すため、本レポートでは“Manus 1.6=エージェント（モデル/アーキテクチャ）世代”として扱います。²

一方、モバイルアプリは別の版管理で継続更新されており、Google Playの配布ページには「更新日：2026/03/28」等のクライアント更新情報が出ます（それでも“What's new”としては「Manus 1.6」の要点が掲示され続けています）。¹¹

このことは、少なくとも2026年3月末まで、ユーザー向け主要アップデートの“世代名”として1.6が前面に出続けている状況を裏づけます。¹²

timeline

title Manusの主要リリース/機能公開（公式ブログ・ドキュメントから）

2025-10-16 : Manus 1.5（速度・信頼性・品質の改善、2エージェント導入）

2025-12-15 : Manus 1.6（Max / モバイル開発 / Design View）

2025-12-22 : Design View（Mark Tool等の画像編集ワークフロー）

2025-12-29 : Meta合流の告知（“Manus is joining Meta”）

2026-01-19 : アプリ共有・テスト/ストア公開フロー（Google Play / App Store）

2026-03-16 : Desktop「My Computer」（ローカルPC操作の導入）

上記の各日付根拠：Manus 1.5告知、Manus 1.6告知、Design View告知、Meta合流告知、ストア公開フロー告知、Desktop機能告知。¹³

変更点の要点と技術的分析

Manus 1.6のリリースノートから抽出できる“確定事項”は、機能追加と、それを支えるエージェント・アーキテクチャ（Max）への言及です。詳細なモデル構造（Transformer構成、ツールコーリング方式の内部仕様など）や学習データ更新は、公開範囲では深く説明されていません（未指定）。¹⁴

Manus 1.6 Maxは「計画立案と問題解決のための、より高度なアーキテクチャ」により性能向上を実現すると位置づけられています。公開されている定量値としては、二重盲検テストでユーザー満足度が19.2%以上向上したという記述があり、改善要因として「出力品質」「精度」「ツール使用の信頼性」が挙げられています。ただし、比較対象（例：1.6通常版/旧版/他社）やタスク集合、尺度設計は明記されていません（未指定）。¹

Wide Research（大量の類似項目を並列に処理する機能）については、1.6 Maxで「すべてのサブエージェントがMaxアーキテクチャで実行される」ことが強調され、並列タスクを最高水準で走らせることで深度・精度を上げるとされます。さらにヘルプセンターでは、Wide Researchの各サブタスクのクレジット消費が上限50に設定される、という運用上の制約も示されています。¹⁵

Wide Researchの仕組み自体は、ドキュメント上「多数の独立エージェントが並列に動作し、各エージェントが専用コンテキストを持つ」方式として説明されています。これは“巨大コンテキスト一発勝負”ではなく“分割・並列・統合”でスケールさせる設計思想で、長文・多資料の処理に向く一方、統合品質（重複排除、矛盾処理、引用の一貫性など）は上位統制に依存するため、結果の検証プロセスは依然重要です。¹⁶

Design Viewは、画像生成を「作って終わり」から「精密編集・テキスト編集・合成」まで統合するUI/ワークフローとして提示され、Mark Tool（選択範囲指定）による局所編集、画像内テキストの抽出・変更、複数画像の合成などが公式に説明されています。加えて、Design Viewを動かす画像生成モデルとしてNano Banana Proが明記されています。¹⁷

モバイル開発は、単なるテンプレ生成ではなく「必要なアプリを記述するだけで、Manusがエンドツーエンドの開発プロセスを処理」するとされます。公開情報の粒度としては、ストア公開までの具体的手順（AndroidはAABを生成しGoogle Play Consoleへ、iOSはApple Developerアカウントを前提にApp Store ConnectへアップロードしTestFlightを開始）が示されている点が重要です。これは「生成」から「配布/テス

ト」までの“最後の一步”の摩擦を減らす方向性で、いわゆる“自律エージェント”の価値（成果物まで到達）に直結します。¹⁸

API・SDK・統合の変更点

開発者向けには、(1)ネイティブのTasks API、(2)OpenAI SDK（Responses API）互換、(3)ファイル管理API、(4)Webhooks、(5)各種コネクタ/統合が提供されています。ここでの重要点は「エージェントを“同期チャット”ではなく“状態を持つ非同期タスク”として扱える」ことです。¹⁰

Tasks APIでは、POST `https://api.manus.ai/v1/tasks` に対して `API_KEY` ヘッダで認証し、`prompt` と（任意で）`agentProfile`、`taskMode`、`attachments`、`connectors` 等を渡します。共有リンク生成（公開閲覧）やタスクリスト非表示、追質問を許可するインタラクティブモードもパラメータ化されています。

²特に `taskMode` が `chat / adaptive / agent` と明示されており、用途によって“軽い対話”と“自律実行”を切り替える設計です（料金・クレジットにも影響し得るため、運用設計に直結）。¹⁹

OpenAI SDK互換では、`openai==1.100.2` まで互換性テスト済みとし、`base_url="https://api.manus.im"` をOpenAIクライアントに与えつつ、実認証は `API_KEY` ヘッダに入れる構成例が提示されています。タスク状態は `running/pending/completed/error` と定義され、ポーリングまたはWebhookで進捗追跡できます。

²⁰ファイル取り扱いでは、事前にFiles APIでアップロードURL（3分で失効するpresigned URL）を取得してアップロードし、アップロードファイルは48時間で自動削除される、と明記されています。これはセキュリティ上の利点（短期保持）である一方、長期案件では“成果物の保存/転記”が必須になる制約です。²⁰

コンプライアンス用途としては、一般APIとは別に「Compliance APIs」がヘルプセンターで案内され、eディスカバリ、リーガルホールド、SIEM統合等の規制・監査ワークフロー向けの「承認された用途でのみ公開」されるAPI群と説明されています。²¹

添付PDFのEnterprise Data Export API仕様では、Base URLが `https://api.manus.im`、認証は `X-API-Key` ヘッダ、エクスポート作成・タスクリスト等のエンドポイント、エクスポートのスコープ（フル、タスクリストのみ、添付込み、特定セッション指定）などが具体化されています。²²

エクスポート結果には「download URLの有効期限」や「file retention expiration time」等の概念が含まれており、監査・保金を“無期限保持”ではなく“制御された一時アクセス”で設計していることが読み取れます。

²³

対応プラットフォーム・要件・導入手順

Manus 1.6の利用導線は、Webアプリ、モバイルアプリ（iOS/Android）、デスクトップ（Windows/macOS）、ブラウザ拡張（Browser Operator）、メッセージング統合（Telegram/WhatsApp Business）、そしてAPI連携へと拡張されています。²⁴

互換性・要件を、公開情報に基づき整理すると以下の通りです（未記載は未指定）。

領域	公式に確認できる対応/要件	根拠
Webアプリ	ブラウザから利用（ローカル要件は未指定）	Google Play説明で「クラウドで非同期実行」等の記載（Web利用の前提） ¹¹
iOSアプリ	iOS 17.0+	²⁵

領域	公式に確認できる対応/要件	根拠
iPadOS	iPadOS 17.0+	25
macOS (アプリ)	macOS 14.0+ かつ Apple M1以降	25
visionOS	visionOS 1.0+	25
Androidアプリ	最小OS要件はGoogle Play本体の本文範囲では未提示 (外部配布のAPKメタデータではAndroid 7.0+表記)	26
Desktop “My Computer”	macOS (Apple Silicon) / Windows	27
Browser Operator	ローカルブラウザ上で既存ログイン/セッション/ローカルIPを利用して操作 (導入は拡張機能のインストール)	28
モバイルアプリ公開	Android: Google Play ConsoleへAAB、iOS: Apple DeveloperアカウントとApp Store Connect/TestFlight	29
WhatsApp統合	WhatsApp Businessアカウントが必須、最新版アプリが必要	30
タスクAPI	<code>agentProfile</code> は 1.6/1.6-lite/1.6-max	2
OpenAI SDK互換	OpenAI Python SDK 1.100.2まで互換テスト、Responses API互換	20

導入手順はユースケースによって異なりますが、公開ドキュメントが具体的な“最短動線”を示しているのは以下です。

- (1) API : APIキー取得→Create Task→ステータス追跡 (ポーリング/Webhook) →成果物取得。 ¹⁰
- (2) Browser Operator : コネクタで「My Browser」を有効化し、拡張機能を入れ、権限付与後に自律操作させる (ただし監視推奨)。 ³¹
- (3) ストア公開 : Manus内のPublish導線を使い、AndroidはAAB生成→Console、iOSはApp Store Connectへアップロード→TestFlightという順でガイドされます。 ²⁹

価格・ライセンス・課金方式の変化

Manusの料金はクレジット制を中核にしています。ヘルプセンターの現行価格説明では、Pro相当のプランとして「\$20/月 (4,000クレジット〜)」と「\$40/月 (8,000クレジット〜、7日無料トライアル)」が併記され、Teamプランは「\$20/席/月〜」とされています (いずれも年払い17%割引の言及あり)。 ³²

プランによりAgent Modeで使えるエージェントが異なり、FreeはAgent Modeでは1.6 Liteのみ、Proは1.6/Max/Liteにアクセス可能、とされています。 ³³

クレジット運用の重要ルールとして、未使用クレジットは次サイクルに繰り越されず、各サイクル開始時に未使用分がクリアされる、と明記されています (UTC+0基準)。 ³⁴

また、Freeの「毎日300クレジット」については、ログインで付与され当日限りでリセットされ、月あたりの利用上限が設定される旨が示されています (Freeでの月上限が言及)。 ³⁵

この設計は「試用に優しいが、計画的に使わないと価値が失われる」タイプの課金モデルであり、チーム運用では“毎月の消化計画”と“高コストタスクの事前審査”が不可欠です。 ³⁶

ライセンス/権利面では、ヘルプセンター（日本語）で「Manusで作成したすべてのコンテンツ（ウェブサイト/画像/動画/スライド等）はユーザーが所有し、ManusはInput/Outputの所有権を主張しない」と明示されています。一方で、運用に必要な利用や、集約/非識別化された形での利用可能性、AI出力の非一意性・著作権上の保護が得られない可能性等の注意も同ページに含まれます。³⁷
つまり、成果物の“利用権”はユーザー側に寄せつつ、知財・コンプライアンスの最終責任（第三者権利侵害チェックなど）はユーザーが負う前提です。³⁷

セキュリティ・プライバシー・コンプライアンス

Manusのセキュリティページでは、SOC 2 Type 1/Type 2、ISO 27001:2022、ISO 27701:2019を掲げ、暗号鍵アクセス制限、組織的対策（従業員バックグラウンドチェック、秘密保持）、プロダクト対策（暗号化、自己評価、ペネトレーションテスト）等の“カテゴリ”を列挙しています。ただし、これらの証跡（証明書・監査範囲等）自体は本環境では本文として取得できず、ページ上の掲示内容ベースの整理です。³⁸

プライバシー実務で特に重要なのは「タスク可視性」と「共有」です。ヘルプセンターによれば、個人アカウントのタスクはデフォルトで非公開で、明示的に共有しない限り他者が見られません。Teamプランでは、Team Ownerがメンバーのセッションデータ（手順や内容）へアクセスでき、Administratorは一部データとクレジット管理、というロール設計です。³⁹
つまり、Team導入時は“Owner権限＝実質的な監査権”であるため、社内規程（閲覧範囲、ログ保全、持ち出し、個人情報の扱い）を明文化しないと、意図せぬ内部閲覧リスクが生じ得ます。³⁹

メッセージング統合は、アクセススコープの明記が比較的詳細です。WhatsApp Business統合では、エージェントがアクセスできるのは「当該プライベートチャットでユーザーが送ったDM」のみで、他の会話・グループ・連絡先リスト・接続前メッセージにはアクセスできないとされます。また、実行は“隔離されたクラウドVM（サンドボックス）”内で処理されると説明されています。³⁰
この説明は、データ最小化（必要なチャネルだけ）と分離実行（VM）の二点で、業務利用の最低要件を満たす設計思想を示します。ただし、最終的な法令適合（個人情報保護法、GDPR、業界規制等）は、利用者側のデータ分類と業務フローに依存します。⁴⁰

コンプライアンス用途としては、前述のCompliance APIsと、Enterprise Data Export API（監査・法対応のエクспорт）が提示され、用途限定・承認制であることが強調されています。⁴¹
これは「一般ユーザー向けAPI」と「規制対応API」を分離し、監査可能な操作（requestId等）を前提化している点で、エンタープライズ契約時の重要な評価材料です。⁴²

既知の不具合・制約、ベンチマーク比較、実運用事例、YouTube検証

Manus 1.6の“設計上の制約”として、公式ドキュメントに明記されているものだけでも複数あります。APIのファイルは48時間で自動削除され、アップロードURLも短時間で失効します。²⁰
Browser Operator（My Browser）も「新しいタブで操作し、エラーや損失を防ぐため監督してほしい」と明記されており、完全放任ではなく“人間のガードレール”が前提の機能です。³¹
さらに、公開共有リンク（share_url）を有効化すると誰でも閲覧可能になるため、機密タスクでは共有機能を設計段階で無効化するなどの対策が必要です。⁴³

ユーザー報告ベースの不具合・不満も複数観測されます。Google Playのレビューには、課金済みでも有料状態として認識されない/追加支払いを促されるといった課金状態の不整合、画像生成/編集が指示通りに動かない、成果物がダウンロードできないことがある、といった記述が見られます（いずれも個別体験で再現条件は未指定）。¹¹

コミュニティ側では、クレジット消費の不透明さや価格感への批判が投稿されており、公式が「繰り返しなし」を明記する課金設計と、ユーザー側の“予算化の難しさ”のギャップが継続課題になり得ます。⁴⁴
また、あるReddit投稿では「実在のユーザー名や個人タスクがユースケースとして表示されているのでは」

との問題提起があり、これが事実なら重大なプライバシー事故になり得ます。一方で、公式ヘルプセンターは「明示的な同意なしにユーザー生成コンテンツを公開表示/推奨しない」と述べています。真偽や発生条件は未確定で、運用上は“公開表示に繋がる設定（共有・公開）”の確認と、チーム/管理者権限の統制が必須です。⁴⁵

ベンチマークについて、公式が示す定量値は主に社内測定です。Manus 1.5では「平均タスク時間が15分→4分弱（約4倍高速化）」「内部ベンチで品質+15%」「満足度+6%」が明記されています。⁴⁶ Manus 1.6 Maxでは「二重盲検テストで満足度+19.2%以上」が明記されていますが、ベースラインや評価設計は未指定です。¹

第三者比較として、DeepResearchEval（2026年公開のarXiv HTML版）を引用します。この研究は9つのDeep Researchシステムを同一枠組みで評価し、品質スコア（0-10の点数体系）と、検証可能文の正誤比率（Ratio）を報告しています。ここでManusは「品質平均スコア5.95」と中位～下位寄りですが、「事実性Ratio 82.30%」で最上位とされています。⁹ ただし、同研究の収集期間は2025年8～9月で、Manus 1.6以前の版が混在し得るため、「Manus 1.6の優劣」ではなく「当時のManus系システムの傾向」として扱うべきです（版未指定）。⁹

DeepResearchEvalの主要数値（論文表の転記、単位は点/比率）を比較表に整理します。

システム（論文表記）	平均品質スコア	事実性Ratio	備考
Gemini-2.5-Pro Deep Research	8.51	76.62%	品質トップだが事実性はManusより低い ⁹
Claude-Sonnet-4.5 Deep Research	7.53	60.72%	品質上位、事実性は低め ⁹
OpenAI Deep Research	7.28	76.21%	バランス型の上位 ⁹
Perplexity Deep Research	6.86	58.94%	品質中位、事実性低め ⁹
Grok4 Deep Research	6.92	61.81%	品質中位、事実性低め ⁹
DeepSeek Deep Research	5.25	76.44%	品質低位、事実性高め ⁹
Manus	5.95	82.30%	事実性トップ（収集期は1.6以前の可能性） ⁹
Doubao Deep Research	7.06	69.50%	中国系、品質は高め ⁹
Qwen-3-235B-A22B Deep Research	7.17	72.39%	中国系、品質高め ⁹

上の表を可視化（数値はDeepResearchEval表の転記）。⁹

```
xychart-beta
  title "DeepResearchEval: 平均品質スコア (0-10) "
  x-axis
  ["DeepSeek", "Manus", "Perplexity", "Grok4", "Doubao", "Qwen3", "OpenAI", "Claude", "Gemini 2.5"]
  y-axis "Avg score" 0 --> 10
  bar [5.25, 5.95, 6.86, 6.92, 7.06, 7.17, 7.28, 7.53, 8.51]
```

```

xychart-beta
  title "DeepResearchEval: 事実性Ratio (%) "
  x-axis
  ["Perplexity", "Claude", "Grok4", "Doubao", "Qwen3", "OpenAI", "DeepSeek", "Gemini2.5", "Manus"]
  y-axis "Ratio (%)" 0 --> 100
  bar [58.94, 60.72, 61.81, 69.50, 72.39, 76.21, 76.44, 76.62, 82.30]

```

競合（ツール/エージェント）としては、深い調査（Deep Research）領域では、OpenAI⁴⁷、Google、Anthropic⁴⁸、Perplexity⁴⁹、xAI⁵⁰、Alibaba⁵¹（Qwen）、ByteDance⁵²（Doubao）、DeepSeek等が同一研究で比較対象に含まれます。⁹

また、エージェントによる実行レイヤ（コーディング/ワークフロー）では、Manus自身が「Claude Code」との比較表を提示し、実行環境（クラウドVM vs ローカル）や安全性を差別化点として挙げています（ただし、これは自社資料であり広告的バイアスがあり得ます）。⁵³

実運用ユースケースの例は、公式リリースノート内でも「スプレッドシートでの財務モデリング」「競合分析マトリクス」「請求書解析から編集可能フォーム生成」など具体例が提示されています。¹

日本語圏の実践例としては、Qiitaで「Webアプリの開発からデプロイまで任せられる」「1.6でモバイルアプリ開発もできるようになった」などが言及され、制作例も共有されています（個人の体験であり一般化には注意）。⁵⁴

モバイル開発の現実的な落とし穴としては、コミュニティ投稿で「AndroidのGradle/SDK差分やローカル環境変数に依存し、生成コードがローカルでビルドできないことがある」といった指摘もあり、生成物の“最終ビルド/署名/審査”は依然として人間側の検証が必要という見立てが妥当です。⁵⁵

最後に、指定のYouTube動画（[watch?v=2wHAAk_XQ0U](https://www.youtube.com/watch?v=2wHAAk_XQ0U)）について。現環境ではYouTube本体ページの本文取得が制限され、動画の全文書き起こしや詳細な発言単位の検証はできませんでした。そのため、公開検索により取得できた「タイトル/提供表記/特典コード/期限/章立てらしきタイムスタンプ断片」等のメタ情報に限定して要約します。⁵⁶

検索スニペットから読み取れる範囲では、動画は「GeminiやChatGPTではなく、最近メインで使っているAIとしてManusを紹介」という主旨で、提供（スポンサー）表記と、視聴者向けのプロモコード（例：先着で無料クレジット付与、期限あり）を含む内容です。⁵⁶

このうち「クレジット付与」という要素は、Manusがクレジット制であること、および無料/有料で利用可能クレジットが異なることと整合します。⁵⁷

また、動画がうたうと推測される“できること”（モバイル開発、Design View、Wide Researchの強化、より高い成果到達性）は、公式の1.6リリースノートやアプリストアの「What's new」に列挙されている機能と整合します。⁵⁸

一方で、動画内で語られている可能性が高い「Manusがどの基盤モデルを使っているか」「Claude Code等との性能差の定量」「コスパ（同条件比較）」といった点は、公開資料だけでは確認できません。公式はDesign Viewの画像モデル（Nano Banana Pro）までは明記する一方、コア推論モデルや学習データ更新の詳細は明示していないため、これらは未指定として扱うのが厳密です。⁵⁹

¹ ⁷ ¹⁴ ¹⁵ ⁵⁸ <https://manus.im/ja/blog/manus-max-release>

<https://manus.im/ja/blog/manus-max-release>

² ¹⁰ ¹⁹ <https://open.manus.im/docs/api-reference/create-task>

<https://open.manus.im/docs/api-reference/create-task>

³ ⁶ ⁹ <https://arxiv.org/html/2601.09688v1>

<https://arxiv.org/html/2601.09688v1>

4 <https://manus.im/blog/manus-joins-meta-for-next-era-of-innovation>

<https://manus.im/blog/manus-joins-meta-for-next-era-of-innovation>

5 <https://www.reuters.com/world/asia-pacific/china-bars-manus-co-founders-leaving-country-it-reviews-sale-meta-ft-reports-2026-03-25/>

<https://www.reuters.com/world/asia-pacific/china-bars-manus-co-founders-leaving-country-it-reviews-sale-meta-ft-reports-2026-03-25/>

8 13 46 <https://manus.im/blog/manus-1.5-release>

<https://manus.im/blog/manus-1.5-release>

11 12 24 26 51 <https://play.google.com/store/apps/details?id=tech.butterfly.app>

<https://play.google.com/store/apps/details?id=tech.butterfly.app>

16 <https://manus.im/docs/features/wide-research>

<https://manus.im/docs/features/wide-research>

17 48 59 <https://manus.im/blog/manus-design-view>

<https://manus.im/blog/manus-design-view>

18 29 <https://manus.im/blog/manus-app-publishing>

<https://manus.im/blog/manus-app-publishing>

20 43 52 <https://open.manus.im/docs/openai-compatibility>

<https://open.manus.im/docs/openai-compatibility>

21 41 <https://help.manus.im/en/articles/13644620-manus-compliance-apis>

<https://help.manus.im/en/articles/13644620-manus-compliance-apis>

22 23 42 https://manus-93df2ee58c37.intercom-attachments-1.com/i/o/k7n2hgls/2034081755/4e32557775033a3b48cef470b00b/Enterprise_ediscovery_Data_expires=1774863900&req=diAkEsl2nIZaXPMW1HO4zY3GEh56Yimi50VAOhbGQxhT1HOQeCBKDV%2FN%2F5o3%0AORGbcv2c

https://manus-93df2ee58c37.intercom-attachments-1.com/i/o/k7n2hgls/2034081755/4e32557775033a3b48cef470b00b/Enterprise_ediscovery_Data_expires=1774863900&req=diAkEsl2nIZaXPMW1HO4zY3GEh56Yimi50VAOhbGQxhT1HOQeCBKDV%2FN%2F5o3%0AORGbcv2cEM%3D%0A&signature=

25 49 50 <https://apps.apple.com/jp/app/manus-ai-agent-automation/id6740909540?l=en-US>

<https://apps.apple.com/jp/app/manus-ai-agent-automation/id6740909540?l=en-US>

27 <https://manus.im/desktop>

<https://manus.im/desktop>

28 <https://manus.im/docs/ja/features/browser-operator>

<https://manus.im/docs/ja/features/browser-operator>

30 40 47 <https://help.manus.im/en/articles/14178607-is-my-data-safe-when-using-manus-agents-in-whatsapp-business>

<https://help.manus.im/en/articles/14178607-is-my-data-safe-when-using-manus-agents-in-whatsapp-business>

31 <https://manus.im/my-browser>

<https://manus.im/my-browser>

32 57 <https://help.manus.im/en/articles/11711111-what-is-the-current-membership-pricing-for-manus>

<https://help.manus.im/en/articles/11711111-what-is-the-current-membership-pricing-for-manus>

33 <https://help.manus.im/en/articles/11711128-what-are-the-differences-between-chat-mode-and-agent-mode>

<https://help.manus.im/en/articles/11711128-what-are-the-differences-between-chat-mode-and-agent-mode>

